地域情報ニュース「品川しゅく」第144号　音声読み上げ用

令和3年12月20日　品川第一地域センター　発行

電話番号03-3450-2000　ファックス番号03-3450-2026

今号は、特集を二つ掲載しています。

**特集1タイトル「ソサエティ5.0時代　アイパッドもある教室　イン東海中学校」**

人間社会は、狩猟社会から始まり、農耕社会と工業社会を経て、情報社会に至りました。それぞれを社会形態の第一から第四段階とすると、現代社会は第五段階、つまり「ソサエティ5.0」に突入しています。

　「ソサエティ5.0」では、個人が必要とする情報を必要なときに得られ、誰もが最新科学技術の恩恵を受けられるとされます。それを実現可能とするのが、膨大な情報と知識を高速処理できるエーアイ（人口知能）の存在です。データ処理のみならず、エーアイはロボットなどを通して物理的にも人間社会に組み込まれていきます。まるでエスエフのようですが、着実に現実になろうとしています。

大見出し1：新時代へ

ソサエティ5.0時代の今、学校教育のデジタル化が進められ、子どもたちにはアイシーティー（情報通信技術）を活用して課題を解決する能力が求められます。品川区では、令和3年2月に、児童・生徒一人一台のコンピュータ・タブレット型端末としてアイパッドが配備されました。文房具の一つとしてアイパッドを使いこなし、より効率的で実践的な学びにつながることが期待されています。

　新時代に突入した教育現場やいかに。東海中学校の生徒さんや先生方からいまの日常についてお話を伺ってきました。アイパッドのある学校生活についてご紹介します。

〇小見出し：新しい文房具アイパッド

アイパッドのアプリ紹介です。カメラ、ウェブブラウザ、ズーム、ワード、エクセル、パワーポイントなどのアプリを使うことができます。「イーライブラリアドバンス」というアプリは、一人一人の得意や苦手に合わせて学習できるドリルです。「ロイロノート・スクール」というアプリは、先生や友達との課題のやりとりや発表に便利です。

挿入画像1：配備されたアイパッドの写真

挿入画像2：アプリ「ロイロノート・スクール」の使用イメージ画像

大見出し2：日常風景

　一つ目。宿題は、アイパッドでノートを撮影し、そのままアプリで提出できます。図も線も綺麗に描けます。

二つ目。アイパッドでインターネット検索ができ、わからないことはその場ですぐに調べられます。考えの発展にもつながります。

三つ目。アイパッドは便利だけど、友達と話すのはやっぱり直接が一番で、コミュニケーションの取り方に変化はありません。

四つ目。コンピュータに強い子が活躍するようになりました。お互いの得意分野を教え合って絆がつながります。

挿入画像：授業でアイパッドを使っている教室の日常的な光景の写真

大見出し3：アイパッド会議

　アイパッドが配布されるにあたり、学習以外に使用しないなどのルールが決められています。しかし、授業中に他のアプリで遊んでしまうなど、生活態度に問題が生じたそうです。そこで、生徒会役員や学級委員が中心となり、「アイパッド会議」を立ち上げました。アイパッドの使い方について検討する場です。『ルールで縛ることではなく、一人一人が「何が問題か」「なぜ問題なのか」を理解することが大事』であると見出し、各クラスで話し合いました。

　アイパッド会議の話し合いの紹介。「アイパッドが生活を乱してしまったのだろうか？　使用ルールを厳しくすれば解決できるだろうか？」「違う」「使う側の問題だ」「授業に集中するといった基本的な心掛けができれば、アイパッドで遊んでしまうこともない。根本的な改善のため、一人一人が問題と向き合おう」

　全クラスで話し合った結果、宣誓をしました。誰か注意役の人を設けたり、ルールの再掲をしたりするのではなく、一人一人が気を付けることに重きを置いています。アイパッドをただ使えるだけでなく、正しく使うこと。自律性の大切さを理解し、育もうとする熱意が感じられました。

挿入画像：東海中学校の生徒が作成した実際の宣誓パネル

　以下、内容の書き起こし。

東海中生ウィズアイパッド　アイパッドと共に成長する東海中生

東海中学校では、生徒が主体となり、全クラスでクラス討議を行ってアイパッドの使用現状を振り返り、その課題と使い方について考えました。話し合いをすることで、それぞれが普段の使い方を振り返り、課題を自覚して正しい使い方に意識が高まりました。以下は話し合いの内容から、共通理解事項としてまとめました。

東海中生は

1　授業中、関係のない内容でタブレットを使いません

2　給食中や休み時間に、学習に関係のない内容でタブレットを使いません

3　タブレットで、他人の写真や動画を勝手に撮りません

4　他人のタブレットを使いません

5　周囲の注意や声掛けに、耳を傾けて自分を振り返ります

注意しあうことが少ない、良い雰囲気の学校を目指す。周囲の気持ちを考える。正しい使い方への意識を高める。自律する（我慢する力・自分をコントロールする力を高める）。

大見出し4：広がる可能性

〇小見出し1：デジタルで

生徒が「生徒会からのお知らせ」をアイパッドで作成しました。

挿入画像1：実際の「生徒会からのお知らせ」の画像

挿入画像2：アイパッドに入っている理科の教科書が置かれた机上の写真

〇小見出し2：オンラインで

体育館の様子を各教室に中継して生徒総会が行われました。

挿入画像1：生徒総会を行っている体育館の写真

挿入画像2：生徒総会を中継している教室の写真

〇小見出し3：つながる家庭

保護者が生徒のアイパッドを通して体育祭を自宅で参観したり、ズームで保護者会をしたりと、保護者のオンライン活用が広まっています。配信された学校だよりに、保護者が気軽にアイパッドから質問や意見をすることもできます。学校と家庭をつなぐ新たな架け橋です。

〇小見出し4：試行錯誤を重ねて

アイパッドはただの文房具であり、学習手段の一つだと、先生方は言います。「アイパッドを使わない」選択肢もあるのです。生徒が興味を持てるか、有意義な学びになるか。生徒の学びの機会を尊重するため、アイパッドで学べること・学べないことを試行錯誤し、日々奮闘されています。

**特集2タイトル「東海七福神めぐり」**

毎年、元旦から1月15日まで。旧東海道の七福神めぐりは昭和7年に始まりました。

大見出し1：北品川から大森までの約4.5キロメートルの道、初詣とまち歩きを兼ねて楽しめます

挿入画像1：七福神めぐりの行程表の図。

以下、行程表の説明です。

品川神社、ようがんじ、いっしんじ、荏原神社、ほんせんじ、天祖・諏訪神社、いわい神社の順でめぐります。いっしんじからは旧東海道を歩きます。徒歩でかかる目安時間も記載しています。品川神社からようがんじまで約6分、ようがんじからいっしんじまで約3分、いっしんじから荏原神社まで約5分、荏原神社からほんせんじまで約15分、ほんせんじから天祖・諏訪神社まで約20分、天祖・諏訪神社からいわい神社まで約20分です。品川神社とようがんじといっしんじの最寄り駅が新馬場駅、ほんせんじの最寄り駅が青物横丁駅、天祖・諏訪神社の最寄り駅が立会川駅、いわい神社の最寄り駅が大森海岸駅です。

挿入画像2：新馬場駅から大森海岸駅の周辺を切り取った地図の画像。七福神めぐりの七つの寺社の位置を印しています。

　以下、画像内の寺社と七福神の紹介です。

新馬場駅の北側に、品川神社、ようがんじ、いっしんじがあります。品川神社は大黒天、ようがんじは布袋尊、いっしんじは寿老人を祀っています。新馬場駅の東側に荏原神社があり、恵比須を祀っています。青物横丁駅の東にほんせんじがあり、毘沙門天を祀っています。立会川駅の南東に天祖・諏訪神社があり、福禄寿を祀っています。大森海岸駅の南側にいわい神社があり、弁財天を祀っています。

大見出し2：品川地区にある五つの寺社を巡ってみました

挿入画像1：品川神社の写真

　最初は品川神社。空に近づいたように感じる境内は、清々しさがあります。下りの階段に気を付けて、正面の北番場参道通りに向かいます。

挿入画像2：鳥居のような門構えのある北番場参道通りの写真

　お店に気を取られてついつい通り過ぎてしまいますが、煉瓦塀の路地に入ります。

挿入画像3：ロケ地にもなった煉瓦塀の写真

挿入画像4：ようがんじの写真

住宅街の中、ひっそりと佇むようがんじ。ほっと一息つき、振り返れば路地の先にいっしんじが見えます。

挿入画像5：いっしんじの写真

　いっしんじに着いたということは、旧東海道に足を踏み入れたということ。石畳みの商店街を歩いていきます。

挿入画像6：道中にある品川しゅく交流館の写真

　品川橋が見えるとそのまま渡りそうになってしまいますが、右折して荏原神社に向かいます。

挿入画像7：荏原神社のにっこりとほほ笑む恵比須像の写真

　さわやかな川辺を歩いていくと、木漏れ日の心地よい境内で恵比須に迎えられます。

挿入画像8：荏原神社の写真

　荏原神社の目の前には鎮守橋、少し先には荏川橋、そして先ほど渡り損ねた品川橋、好きな橋で目黒川を越えて旧東海道に戻ります。

　途中、街道松の広場やユニークな門構えの城南小学校があります。

挿入画像9：現代の寺子屋と称したくなるような門構えの城南小学校の写真

　緑が深まったと感じたら、そこはほんせんじ。大きな地蔵菩薩が見守っています。境内にはカフェもあります。

挿入画像10：ほんせんじの写真

　そして大井地区へ…。

大見出し3：七福神について

　七福神の信仰は室町時代に始まり、福神を祀る寺社を巡拝する「七福神めぐり」の風習は江戸時代になって生まれました。

　七福とは「七難即滅、七福即生（七つの難が去り、七つの福が生まれる）」というお経の言葉に由来すると言われています。七という数字が特徴的ですが、当時禅僧の間で好まれた「竹林の七賢（三世紀の中国における七人の知識人）」になぞらえて、流行りの神様が選ばれたとする説もあります。現代でも七は「ラッキーセブン」としてなじみ深く、おめでたい感覚は不思議と共通していますよね。

　七人の福神はご利益も起源も様々です。簡単なプロフィールをご紹介します。

挿入画像：国際日本文化研究センターに所蔵されている浮世絵・いちゆうさいくによしの「七福神図」の画像

〇小見出し1：大黒天

挿入画像：大黒天のデフォルメイラスト。頭巾をかぶり、二つの米俵の上に座っている。右手で打ち出の小槌を持ち、左手で袋を背負っている。表情は微笑みを浮かべている。

　以下、紹介文。インドにおける破壊の神であるシヴァ神の化身の一つの大黒天が、日本でやさしい神様として知られるおおくにぬしのみことと、大きな国、つまり「だいこく」という音で通じて混ざり、現在の姿になったそうです。頭巾は「上を見るな」という謙虚さを、二つの米俵は「二俵で満足せよ」という欲張らないことを表しています。打ち出の小槌は、ツチ、つまり土壌の土に通じ、穀物を生み出す大地を表すとされています。五穀豊穣や財福のご利益があります。

〇小見出し2：布袋尊

挿入画像：布袋尊のデフォルメイラスト。大きな福耳と太鼓腹をしている。右手で袋を背負い、左手でうちわを持っている。表情は笑っている。

　以下、紹介文。中国唐代末期に活躍した禅僧で、七福神の中で唯一実在した人物です。いつも微笑みを浮かべていて、半裸で大きな太鼓腹が目立ちます。大きな布の袋を持っているのも特徴的です。この袋には、身の回りの持ち物やほどこされた食べ物がしまわれていました。放浪生活を送る楽天的な生きざまが伝えられています。人の吉兆や天気を必ずあてるという能力を持っていたそうです。福徳円満のご利益があります。

〇小見出し3：寿老人

挿入画像：寿老人のデフォルメイラスト。帽子をかぶり、立派な白髭をたくわえている。右手で杖と巻物を持ち、左手で桃を持っている。鹿を従えている。

　以下、紹介文。昔の中国では、寿老人は南極星の化身とされていました。南極星はめったに見ることができないため、世の中が平和なときにだけ現れるめでたい星だと信じられていました。従えている鹿の鹿という漢字をロクと読み換え、財福の意味である禄を表し、福禄を授ける神様とされています。不老長寿のシンボルである桃を持つ姿で描かれることもあります。不老長寿のご利益があります。

〇小見出し4：恵比須

挿入画像：恵比須のデフォルメイラスト。帽子をかぶっている。右手で釣竿を持ち、左腕で魚の鯛を抱えている。表情は笑っている。

　以下、紹介文。七福神の中で唯一の日本の神様です。様々な神様の要素を持つとされていますが、イザナギ・イザナミの子とする説では、生後事情があって海に流され、流れ着いた土地で福を運ぶ来訪神として大切にされたといいます。釣り竿や鯛を抱えた姿は、論語の「釣りしてこうせず」という、網で魚を取らない、つまり欲張らないことの教えであり、暴利をむさぼらない清い心を表していて、商売繁盛の神様として有名です。大漁や商売繁盛のご利益があります。

〇小見出し5：毘沙門天

挿入画像：毘沙門天のデフォルメイラスト。甲冑を身にまとっている。右手でホコのような武器を持ち、左手で仏教の建築物である仏塔を持っている。表情は凛々しい。

　以下、紹介文。もとはインドの財宝福徳を司る神様で、多聞天とも呼ばれます。仏教において東西南北を守る四天王の一人で、北を守る善神とされています。いかめしい甲冑姿が特徴的です。その姿から戦いの神様としての存在感が大きく、日本に伝わりました。右手に持つ鉾や槍のような武器は敵を打ち砕き、左手の仏塔は人々に福徳を与えるとされています。財運や戦勝、勝負運のご利益があります。

〇小見出し6：福禄寿

挿入画像：福禄寿のデフォルメイラスト。頭が長く、立派な白髭をたくわえている。右手で杖を持ち、左手で巻物を持っている。鶴を従えている。

　以下、紹介文。昔の中国では、時代が進むと寿老人は長い頭と豊かな白髭の姿でも描かれるようになり、それが福禄寿の姿です。福禄寿と寿老人は同一人物とされますが、日本では別人として七福神に加えられました。手にしている巻物には、人の寿命が記されています。「福」は子宝、「禄」はお金、「じゅ」は長寿という三つの徳を備える人徳の神様の代表とされ、鶴や亀を従えています。子孫繁栄や財運、長寿のご利益があります。

〇小見出し7：弁財天

挿入画像：弁財天のデフォルメイラスト。天女のような見た目をしている。楽器の琵琶を持っている。

　以下、紹介文。もとはインドの水の神様で、水の流れる音から音楽や話術の神様として信仰されていました。その後、学芸全般にわたる神様とされました。インドの別の神様と混同されたことや、才能のサイ、つまりザイという音がお金のザイと通じるため財富の神の一面もあり、現在では有名となっています。日本古来の神様であるいちきしまひめのみことと同一視され、琵琶を持つ美女の姿で描かれるようになったそうです。財福や学才、諸芸上達のご利益があります。

　注意書き。七福神のプロフィールは諸説あります。ご興味のある方はぜひお調べください。

地域情報ニュース「品川しゅく」第144号の内容は以上です。